

おもいやり

副校長 登坂 峰行

48年ぶりの寒波により、寒い日が続いています。冷え込んだ朝、氷で覆われたプールは朝日が反射して輝いています。1月22日昼頃から降り始めた雪は時間とともに景色を白く変えていきました。教室から見ていた子供たちは心を躍らせ、ワクワクしていました。翌朝は校庭一面が雪景色でした。登校してきた子供たちは雪の校庭を見て大歓声、「ここで遊べたら素晴らしいね。」目をキラキラさせていました。1校時は太陽が顔を出し、暖かな日差しの中で雪遊びをしました。大小の雪だるまがたくさん校庭に並びました。



雪が積もった日は前の人歩いたあとをたどって行きます。雪のために歩ける範囲は狭くなり、すれ違うときはお互い道を譲り合います。雪の日に限らず狭い場所ですれ違うときは、体や持ち物が相手にあたらないように気遣うしぐさをします。このような相手を気遣うしぐさは傘の持ち方や挨拶の仕方など多くあり、いつの時代でも大切にしてきました。どのような場面でも、相手への思いやりをもった行動が必要です。

相手を思いやる気持ちをもつことは学校生活全体を通して育てています。本校の学校教育目標にも、豊かな人間関係を築いていく力を育てていくことを示しています。学習指導や特別活動、行事などそれぞれに目標があり達成を目指しますが、それら一つ一つの目標達成だけでなく、お互いのよさを認めることや優しさ、思いやりを育てることなども目指しています。本校で取り組んでいる環境委員会の「朝の挨拶運動」もそのうちの一つです。月曜以外の朝、環境委員の子供が正門に立ち、登校する子供たちと挨拶しあいます。しかし、先日の学校評価アンケートでは、「挨拶が十分ではない。」と、ご意見をいただきました。挨拶は人と人が心を交わす第一歩です。学校の中だけでできるのではなく、地域でも自分から進んでできる力を育てなければなりません。平成32年度から小学校で完全実施される新学習指導要領では、知っていることを使って社会とかかわり、よりよい人生を送ることの大切さが記されています。実社会や実生活との関連を通した課題をもち、身につけた知識や技能をどう使えばよいのか考え、実行できるようにします。そしてその中には優しさや思いやりの大切さも記されています。



これから5年生は6年生に渡す手芸作品「バッジグー」を作ります。渡す相手の好きなものを調べ、それを生かしたレイアウトを考えます。渡したとき喜んでもらえるようにするため、自分が取り組むことを決めて実行します。卒業式が近づく頃、今年も気持ちのこもった「バッジグー」が仕上がると思います。